

第1学年 学級活動指導案

平成28年11月17日(木)

5校時

小学校1年1組 27名

指導者 教諭 T1

支援員 T2

- 1 題材名 「げんきっこ」がいっぱい
活動内容(2) キ食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

2 題材設定の理由

わたしたちをとりまく食生活は、近年著しく変わってきた。人々は、多様な食品を、また、多様な調理法でおいしく食べるということを追求するようになり、自分の嗜好にあったものを選んで食べるようになってきた。その結果、食生活が豊かになった反面、肥満や偏食により、子どもたちの身体面・精神面での健康が損なわれつつある。

本学級の児童は、給食が大好きで、いつも楽しく食事をしている。しかし、アンケート結果によると、85%程度の児童が給食を残している。嫌いな食べ物が入っていると少しは食べてみようとするが、残してしまう児童が多いことがわかった。

そこで、比較的偏食を減らす指導がしやすい低学年のこの時期に、食べ物が体と心の健康のために大きな役割を果たしていることを理解させたいと考えた。また、何でも進んで食べようとする態度を育て、実践できるようにと考え、本題材を設定した。

指導にあたっては、まず、アンケート結果から自分たちの給食の食べ方を振り返らせる。次に、身近な給食の献立を取り上げ、給食にはいろいろな食品が使われていることに気付かせる。そして、それぞれの食品が健康な体を作るための大切な働きをしていることを知らせ、いろいろな食品をバランスよく食べることの大切さを理解させたい。「なぜ、嫌いな物も食べなくてはならないの。」という素朴な疑問に答えるために、食べ物を3つの「げんきっこ」に分けて提示する。嫌いな物でも大事な「げんきっこ」であると知ったとき、今まで苦手だった食べ物でも好き嫌いせず、少しずつ食べようとする意欲が高まるだろう。さらに、自分のめあてを決め、がんばりカードに取り組むことで、バランスのとれた食生活の実践化を図っていききたい。また、家庭にも呼びかけ、実践の継続化を進めていききたい。

3 題材の目標

- (1) 食べ物の3つの働きについて知り、健康な体を作るためには、好き嫌いしないで食べることが大切であることを理解する。
(2) 嫌いな物でも、少しずつ食べようとする意欲をもつことができる。

4 題材の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
食べ物は好き嫌いせずに、なんでも食べようとしている。	バランスよく食べるためにどうすればよいか、自分の生活を振り返りながら考え、毎日の生活に生かしている。	いろいろな食品が健康な体を作るために必要であることを理解している。

5 食育の視点

- (1) 食品の名前とその働きがわかる。(食品を選択する能力)
(2) 好き嫌いをせずに食べようとするができる。(心身の健康)

6 指導計画

- (1) 事前 給食に関するアンケート
(2) 本時 学級活動「げんきっこ」がいっぱい

- (3) 事後 ① 1 週間のがんばり表をつけ、実践の継続化を図る。
 ② 給食に使われている食品を赤，黄，緑の「げんきっこ」に分類する。
 ③ 学年だよりで家庭への啓発をする。

6 本時の学習

(1) 目標

給食には，3つの「げんきっこ」がたくさん入っていることを知り，好き嫌いなく食事をしようとする意欲をもつことができる。

(2) 展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評価規準（評価方法）
1 アンケートの結果から好き嫌いの実態を知る。	1 人によって給食の食べ方に違いがあることをつかませる。	・ 今までの自分を振り返り，好き嫌いしないで食べるためのめあてを考え，決定することができる。（ワークシート・発表）
2 紙芝居を見て，好き嫌いが体に良くないわけを考える。	2 食べ物には大きく分けて3つの働きがあることを知らせ，まんべんなく食べることが丈夫な体を作ることにつながることを理解させる。	
3 給食の材料を3つの「げんきっこ」に分ける。	3 3つの食品群に分けることによって，栄養のバランスがよく考えられていることに気付かせる。	
4 調理員さんの願いを知って感想を話し合う。	4 自分たちの健やかな成長を願い，調理してくださる調理員さんの思いを聞かせることで，感謝の心で好き嫌いせず食べようとする気持ちを高める。	
5 好き嫌いせずに給食を食べるための自分のめあてを発表する。	5 これから給食を好き嫌いなく何でも食べるためにどんなことをしていきたいか，めあてを1つ決め，がんばりカードに書かせる。	
6 「げんきっこの歌」を歌い，みんなで実践していかうとする意欲をもつ。	6 歌を歌い，3色の仲間分けについて理解を深めるとともに，何でも食べようとする意欲をもたせる。	

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	いろいろな食べ物の働きを知り，好き嫌いなく食べようとする意欲をもっている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	紙芝居・「げんきっこ」・手紙の内容を振り返らせ，好き嫌いなく食べることの大切さに気付くよう助言する。